

本日、原水爆禁止二〇一二年世界大会の挙行にあたり、原爆被災により犠牲になられた方々に対し、習志野市民を代表して謹んで哀悼の意を捧げます。

本市は、昭和五十七年に千葉県内で初めて「核兵器廃絶平和都市宣言」を行って以来、平和の尊さ・核兵器の愚かさを次世代に継承し、再びあの惨劇が地球上で繰り返されることのないよう、様々な場面で訴え続けてまいりました。

三年前のオバマアメリカ合衆国大統領のプラハ演説以来、世界的にも核兵器廃絶への動きが高まり、国際社会が「核なき世界」の実現に向けて前進していることと感じております。しかしながら、米国が、昨年夏及び11月に核兵器性能実験等を行い、北朝鮮が核・ミサイル開発の正当性を主張する等、核兵器廃絶への道は、依然険しいものであります。

本市では、毎年8月6日、9日に平和祈念式典を行い、市内に黙とうを呼びかけるほか、中高生を被爆地へ派遣する等さまざまな事業を展開しております。今年度は、平和都市宣言三十周年の節目の年であり、これを機会に改めて、「このような思いを他の誰にもさせてはならない。」という被爆者の強い願いを世界中の皆様と共有したいと思っております。そして、今後とも習志野市民が一体となって、地道に平和を希求し、次代へ平和への思いをつないでまいります。

重ねて、尊い犠牲になられた方々の御霊に心からご冥福を祈念申し上げますと共に、本日ご臨席の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

平成二十四年八月六日

習志野市長

宮本 泰介